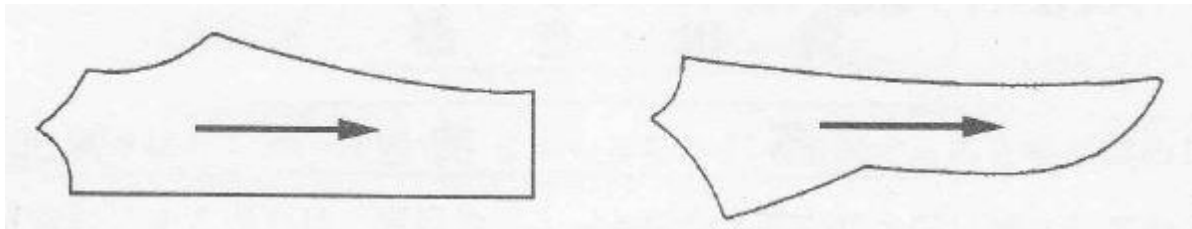


エコファー（フェイクファー）縫製マニュアル

＜縫製準備＞

- パイル状のエコファーは、厚みの為扱いがすこし特殊となります。パターンニングは少しゆとりを持って作ってください。
- 毛並による方向性がありますので、延反及び型入れの際には方向を統一してください。（同一反、同一箇所の使用をお願いします。）
- 立毛調の生地で、方向が分かりにくくなる恐れがある場合は型入れ時、パイル裏面に矢印で毛の方向を示しておくとう便利です。



- 延反量は少な目にし、中表で重ね、重ね枚数の目安は次の通りです。
 ■毛足の短いもの 10枚～15枚 ■毛足の中程度のもの 5枚～10枚
- 特に毛足の長い生地は、パイルを切る恐れがあり、手動1枚裁断をお奨めします。あらかじめ荒裁ちをし、その後マーキングをせず押しピンでマーク紙を止めて直接裁断の方がスムーズです。
- 延反、積重ね後、生地がずれない様固定して裁断してください。（ピンプレート、パールピン）生地ズレ防止に、薄手の不織布をはさむと効果的です。
- ニット地の場合、生地が伸びやすい為、あまり張力を加えないで延反してください。
- 延反時、パイルの乱れた部分はブラシで毛並を整えておくと、以降、型が残らず手間がはぶけます。

＜縫製＞

- 生地にかかる前には、下記を目安に必ずテスト縫いをし、条件と調子を確認してください。
 ミシン糸 ポリエステルフィラメント糸（＃50～＃60）

ミシン針	# 11 (DB-1)
運針	10～12 針/3 cm
押え金	テフロン 又は スライドリング
押え圧	4Kgs 以下

- 特殊ミシンがある場合、上下作動で行うと効率良く縫えます。
- 通常ミシンを使う場合、縫いずれ防止の為、パターンの中央部に合い印を入れ、忠実に縫製してください。
- 縫代を両割にして、オーバーロックした方がきれいになります。縫代端の毛足を手で押し込みながら、広幅のオーバーロックをかけることにより、毛足を抑え込み、シームの縫い合わせが容易になります。
- 縫い合わせの場合、サイドから細いエアパイプを当てながら毛を中に送り込むと、自動的に縫え、後で毛だし等の手間がはぶけます。
- いせ込みは袖付けでは 25mm 程度が適当です。
- 裏地のスソ始末は、デザインによりブラシ等、通常の方法で問題ありません。
- ヘム端はオーバーロックして、手まつりまたはスソ引きミシンを使用してください。
- デザインにより裁断時の地の目がバイアスになる場合は、通常の伸び止めテープを張ってください。（例えばニット組織、スラッシュポケット等）

< 芯地 >

- 芯地の接着には温度、圧力、プレス時間を正確に管理できるフラット型プレス機を使用してください。
- フラットタイプを使用した場合の標準接着条件は次の通りです。

	温度	圧力	プレス時間
織物の場合	150℃	0.2kgs/cm ²	3 秒
ニットの場合	120℃	0.2kgs/cm ²	8 秒

- 適正芯地 厚み、風合を考慮して選んでください。
ローラータイプ接着機は、できるだけ避けることをお奨めしますが、使用する場合は次の条件を参考にしてください。

- 温度 110℃/圧力 1kgs/cm²/時間 10 秒
- 立毛調のものは避け、長毛で、なで毛の商品のみ使用してください。
- 接着前、ブラシで毛並を必ず整えてから投入してください。

■毛並の方向は、ローラー回転方向と逆向きに合わせてください。

- 接着後、目つぶれの激しいものは、温かいうちに生地を振ってやると立毛調に戻ります。

<仕上げ>

- アイロンは乾熱で使用、スチームは避けてください。
- 縫い目割等、裏から当てる場合、140℃以下で使用してください。
- パイル面からのアイロンは避けてください。
- 綿材料等、シワの発生しやすいものの裏地として使用する場合は、取り外しの可能なデザインをお奨めします。
- 縫製時、発生したパイル乱れは、熱風（ヘアドライヤー等）を当てながらブラッシングで毛並を整えてください。

<梱包・出荷>

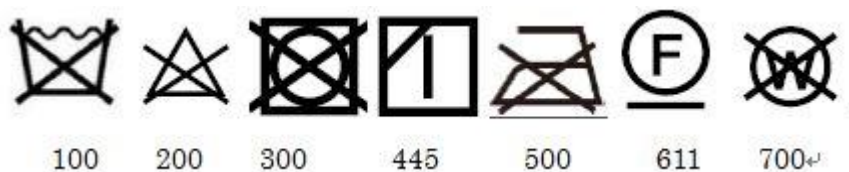
- できるだけ個々にハンガー状態で、ビニールをかぶせ輸送することをお奨めします。
- 止む無く箱詰めする場合は、厚目のビニール袋を毛並を乱さないようにしてかぶせ、箱詰めにしてください。この際の枚数は毛足の長さにより変わりますが、なるべく押し込まないようにしてください。
- 箱詰めの際、製品は決して折りたたまないで、製品の寸法にあわせた箱を用意してください。

<パイル衣料のクリーニング事故と推定原因>

- ① パイルの緩和・収縮
タンブラー温度が高すぎた場合、あるいはスチーム仕上げによる。
- ② 毛乱れ、パイルのからみ
着用摩擦やクリーニングでの処理が強すぎた場合による。
(カネロンの場合、特に温度の高すぎや処理時間の長すぎに注意)
- ③ パイルのかさつき、硬化
主として柔軟剤の脱落による。この場合、再度柔軟仕上げをすると良くなる。その他、スチーム仕上げによるパイルの収縮によることもある。
- ④ 脱毛

変化します。)

<取扱い絵表示>



- ① 洗濯処理不可
- ② 漂白処理不可
- ③ 洗濯処理後のタンブル乾燥不可
- ④ 日陰でのつり干し乾燥
- ⑤ アイロン仕上不可
- ⑥ 石油系溶剤（蒸留温度 150℃～210℃、引火点 38℃～）でのドライクリーニングができる。弱い処理
- ⑦ ウェットクリーニング不可

<その他 注意点>

- 縫製品の各部分は、必ず同一反物、同一箇所をご使用ください。
- 疵引箇所は、バノックピンまたはマジック等で表示しておりますので、この部分は使用しないでください。
- 裁断されたものは、切り口に遊び毛が付着しておりますので、遊び毛を取ってご使用ください。
- パイルの乱れは、熱風（ヘアドライヤー等）を当てながらブラッシングで毛並を整えてください。
- 不審な点がございましたら、裁断前にご連絡をお願いいたします。
（裁断後の責任は負いかねますので、ご了承をお願いいたします。